

応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会） 開催案内

開催日時 平成28年9月2日（金）～5日（月）

日程：9月2日（金） 研究発表会 ポスター発表、自由集会
9月3日（土） 研究発表会 口頭発表、自由集会、懇親会
9月4日（日） 総会（午前）、公開シンポジウム（午後）
9月5日（月） エクスカーション（渡良瀬遊水地、首都圏外郭放水路 他）

会場：東京大学 農学部 弥生講堂，農学部第1号館（東京都文京区 東京大学弥生キャンパス内）

本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラムに申請予定です。

●申し込みおよび問合せ先
応用生態工学会事務局
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5
麹町ロイヤルビル405号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520
E-mail:tokyo_20th@ecesi.com
【大会実行委員長：虫明功臣(東京大学名誉教授)】

参加申し込み（研究発表会・総会・エクスカーション）

URLの申し込みフォームで受け付けます。また、ファックスでの申し込みも可能です。参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上、右記へファックスして下さい。なお、詳細は裏面をご参照ください。

公開シンポジウム「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンス－応用生態工学の新たな展開－」

<日時> 平成28年9月4日（日曜日） 13:00～17:00

<場所> 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

公開シンポジウム
参加費：無料

<開催主旨>

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには、地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある。一方で、地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し、それに伴って国土強靱化が叫ばれ、平成27年11月には気候変動適応策が閣議決定された。このような状況に対して、環境と地域社会のレジリエンスを高めることが、未来を見据えた重要なテーマとなっている。応用生態工学はこれまで生態学・工学間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが、今後は社会学・経済学等とも連携し、総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる。本シンポジウムは応用生態工学会20周年記念大会のハイライトとして、この応用生態工学の新たな展開を議論し、地域社会への貢献の方策を探る機会とする。

<プログラム>

13:00 趣旨説明

13:10 第1部 「応用生態工学の評価と課題」

- ・応用生態工学会会長 辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）
- ・応用生態工学会前会長 谷田一三（大阪府立大学名誉教授）

第2部 「新たな視点と連携」

- ・島谷幸宏（九州大学教授）
- ・西廣淳（東邦大学准教授）
- ・広田純一（岩手大学教授）
- ・宮内泰介（北海道大学教授）

第3部 パネルディスカッション

コーディネーター：中村太士（北海道大学教授）

パネリスト：第2部登壇者、行政関係者等



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

後援(予定)：国土交通省関東地方整備局、河川財団、東京大学、建設コンサルタンツ協会関東支部
土木学会関東支部、日本緑化工学会、日本景観生態学会